# 校長室だより １２月

2025(令和7)年12月2日
大阪市立天王寺小学校
校 長　藤 原 和 彦

## 見えないものこそ大切に

２学期最後の月になりました。始まったころと違って、子どもたちは冬の装(よそお)いで登校しています。長い2学期でしたが、8月の校長室だよりに書いたように、子どもたちは主体的に過ごせたでしょうか。もし、長い今学期をあっという間に感じたという人がいたら、その子は、きっとできたのだろうと思います。

さて、あと3週間ほどで冬休みが始まります。冬休みが始まると、子どもたちがお待ちかねのクリスマスがやってきます。クリスマスは、もともとイエス・キリストの生誕を祝うものでしたが、今の日本では、家族や親しい人たちと過ごす国民的行事になっています。きれいなツリーやイルミネーションとともに、優しい笑顔のサンタクロースが、街中を華(はな)やかにしてくれます。

ところで、サンタクロースと言えば、ある有名な実話をご存じでしょうか。絵本にもなっているそうなので、聞いたことがある方も多いかも知れません。

今から約130年前のことです、アメリカの新聞社であるニューヨーク・サンに、ヴァージニアという8歳の女の子から手紙が届きました。そこには、「友だちはサンタクロースなんていないと言うけれど、サンタクロースは本当にいるのですか？」という質問が書かれていました。そして、その問いに対して、なんとニューヨーク・サンは、社説という新聞の顔ともいえる記事を使って、こう答えたのです。（一部を抜粋(ばっすい)して紹介します。）

「実はね、サンタクロースはいるんだよ。愛とか思いやりとかがちゃんとあるように、サンタクロースもちゃんといるし、そういうものがあるおかげで、人の毎日は、癒(いや)されたり潤(うるお)ったりするんだ。

サンタクロースが人の目に見えないから、いないってことにはならない。本当の本当っていうのは、誰の目にも見えないものなんだよ。目に見えない世界には、どんなに力があっても、こじ開けられないカーテンみたいなものがかかっているんだ。素直な心とか、寄り添う気持ちや、誰かを好きになる心だけがそのカーテンを開けて、その向こうのすごくきれいで素敵なものを見たり描いたりすることができるんだ。

サンタクロースはいない？いいや、今このときも、これからもずっといる。何千年、いや何十万年たってもサンタクロースはいつまでも、子どもたちの心をわくわくさせてくれると思うよ。」

世界で一番有名な社説と言われるこの話は、目に見えるものしか信じない悲しさと、目に見えないものにある確かさや尊さ、そしてそれを信じる素晴らしさを教えてくれます。

よく考えてみると、私たちの周りには、見えないけれども確かにあるものが本当にたくさんあるように思います。特に教師という仕事をしていると、それによって支えられているなあと感

じることが多々あります。教育への情熱や子どもたちへの愛情、保護者や地域のみなさんからの信頼、同僚との協力など、それらは目に見えないけれども確かに存在していますし、それがあるからこそしんどいことも乗り越えていけるのだと思っています。

では、学校で毎日を過ごしている子どもたちはどうでしょうか。友だちとの友情、先生への尊敬、家族や学園の先生方への感謝など、どれも目には見えませんが、しっかりと感じてくれているでしょうか。目に見えるものを大切にするのは簡単です。目に見えないからこそ、その価値を感じる心をもって、大切にしてほしいと思います。

でも、どうすれば大切にできるのでしょうか。それは、言葉に表すことだと私は思います。「ありがとう」や「ごめんなさい」、「がんばれ」や「信じているよ」、「大好きだよ」など、想っていることを言葉にすることで、見えないものが確かにあることを感じ、寄り添えるのではないでしょうか。そして、そうした言葉が満ち溢(あふ)れることで、私たちの生活が豊かに彩(いろど)られるのだと思います。

では、私もみなさんにお伝えしますね。

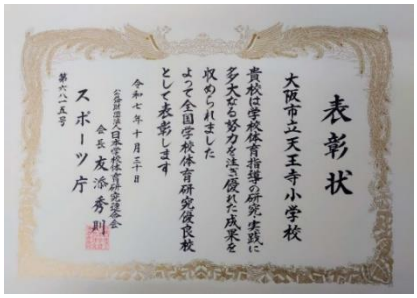
少し早いのですが、みなさん今年も本当にありがとうございました。そして、どうか、まもなく始まる冬休みが、子どもたちにとって、幸せなひと時になりますように。

## 全国表彰をいただきました

天王寺小学校では、昨年までの4年間、体育科の研究に取り組んできました。そしてこの度(たび)、その研究活動が評価され、「全国学校体育研究優良校」として、（財）日本学校体育研究連合会とスポーツ庁より表彰状をいただきました。

天王寺小学校では、これまでも体育科の研究に取り組んだ歴史があり、昭和57年と平成5年の2度にわたって体育科研究の全国表彰を受けています。また、大阪市教育委員会から研究指定校の認定を受けて、体育科の研究発表を何度もしています。実は、私がまだ若かりし頃、天王寺小学校が体育科の研究発表をするときに、記録係としてお手伝いをしに来たことがあります。その時、地下道を通ってめずらしい学校だなあと思う、「初めて天小に来た人あるある」を経験したことを今でも覚えています。（でも、肝心(かんじん)の発表内容は忘れてしまいましたが…。）

本校に限らず、日本の多くの小学校では、授業研究を中心とした学校単位での研究活動を行っています。教員によっては校外の研究組織にも所属して、様々な教科・領域で全市的な研究活動に取り組んでいる者もいます。研究活動は、普段の学習指導にプラスαの部分があるため負担にはなるのですが、取り組んだ分だけ指導力の向上につながりますし、何よりも子どもたちへ還元されるという一番の成果があります。


表彰状

大阪市立天王寺小学校

貴校は学校体育指導の研究・実践に多大なる努力を注ぎ優れた成果を収められました

よって全国学校体育研究優良校として表彰します

令和七年十月三十日

（財）日本学校体育研究連合会
会長 友添秀則

スポーツ庁

第六八二五号

本校の研究活動は、今年度より教科を国語科に変えて取り組んでいます。今後も教職員と共に、子どもたちにとって、楽しく身につく学びをすすめていけたらと思っています。